

国語科 学習指導案

日 時 平成21年11月6日(金) 5校時
学 級 北上市立東陵中学校 2年A組
男子13名 女子13名 計26名
場 所 2年A組教室
授業者 教諭 横井 智子

1 単元名 事実と意見

教材名 「根拠を明らかにして書こう」(光村図書)

2 単元について

(1) 教材観

新学習指導要領の「書くこと」の第2学年の目標は「目的や意図に応じ、社会生活にかかわることなどについて、構成を工夫して分かりやすく書く能力を身に付けさせるとともに、文章を書いて考えを広げようとする態度を育てる」である。また、第2学年の内容「書くこと」の(1)イに「自分の立場及び伝えたい事実や事柄を明確にして、文章の構成を工夫すること」ウに「事実や事柄、意見や心情が相手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えたり描写を工夫したりして書くこと」とある。

本単元は、2つの教材「モアイは語る―地球の未来」「根拠を明らかにして書こう」から成り、「説得力のある表現を学ぶ」ことを主たるねらいとして位置づけられた単元である。「モアイは語る―地球の未来」は、筆者が解明した事実を根拠に、森林伐採によるイースター島の文明崩壊から現代の地球資源の有効活用の必要性を説く説明的文章である。根拠となる事実が意見を支え、説得力を高める要因となることを理解するに適した教材である。本教材「根拠を明らかにして書こう」は、自分の立場を明確にすること、根拠を明確にして示すこと、反論を予想し意見を述べること、構成を工夫することなど、説得力のある意見文を書くための大切な要素や手順を学ぶ教材であり、生徒が実際に書く活動をする過程で書く技術を高められる「書くこと」の学習として適切な教材であると考えられる。

(3) 指導観

今年度の東陵中学校の研究主題は「確かな学力の定着を図る授業のあり方 ―『学び合い』のある授業展開を通して―」である。国語科の研究としては、昨年度、コミュニケーション能力の低下が問題となっている社会背景、新学習指導要領「話すこと・聞くこと」の目標から、「伝え合う力」を育成することを目標に掲げ、自分の考えをもち適切に表現する力を育成する課題の設定、必要な言葉で伝え合い認め合う場面の設定を研究の柱として研究実践を行ってきた。今年度は、全教科の基盤となる言語能力の育成、実際の言語活動において有機的に働く「表現力」の育成を目標に、「学び合い」の学習形態を工夫し、「学び合い」を入れた言語活動の充実を図っている。本時では、上記の研究主題・国語科の研究課題と学級生徒の実態を踏まえ、次のことを生かした指導を行いたい。

- ・グループ学習① 二つのモデル文を比較して、よりよい意見文とはどのような文章なのか考える。小グループで意見を交流することで、自分の考えを相手に理解してもらえるように話す・意図を考えながら内容を聞く力を高める。また、交流を通して、根拠のある明確な意見文・説得力のある意見文とはどのようなものか、適切で効果的な文章表現はどのようなものかを学ばせ、書く能力の高まりを促す。
- ・グループ学習② グループ学習①で考えたモデル文の良い点を発表し合い、感想を交流し合うことで、複数の視点での気づきをおさえ、多くの良い表現を学ばせる。

3 単元の目標

【国語への関心・意欲・態度】

- ・論理的な文章を読み味わい、根拠の明確な分かりやすい意見文を書こうとしている。

【読む能力】

- ・文章の構成に着目し、段落の役割や論理の展開の仕方をとらえることができる。(1) イ
- ・事実や根拠を読みとり、筆者の意見をとらえることができる。(1) イ

【書く能力】

- ・自分の立場や伝えたい事実を明確にし、文章の構成を工夫して書くことができる。(1) イ
- ・根拠の示し方や文章の構成に意見を述べあい、考えを広げることができる。(1) ウ

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

- ・文の照応や構成について考え文章を書くことができる。(1) イ(ウ)
- ・根拠が明確な意見文を書くために、文章の形態や展開の工夫を考えることができる。(1) イ(オ)

4 単元の指導計画と評価規準（9時間扱い 本時 6／9）

時数	学習内容	評価規準			
		国語への関心・意欲・態度	読む能力	書く能力	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
1	通読し、大まかな内容をとらえる	学習の見通しをもち、筆者がどのように文章を展開しているか興味や関心をもって読み進めようとしている。	筆者の文章の展開の仕方や大まかな内容をとらえている。(1) イ		
2	意味段落を確かめ、段落の役割、論理の展開の仕方をとらえる。		三つの意味段落に分け、構成の型をとらえている。(1) イ		
3・4			事実と根拠を区別して、内容と論理の展開をとらえている。(1) イ		
5	筆者の主張を読み取り要約する。		筆者の主張と、意見を支える根拠をとらえ要約している。(1) イ		文の照応、構成について考え要約文を書いている。(1) イ(ウ)
6 本時	二つのモデル文をもとに、説得力のある意見文とはどんなものかを考える。			モデル文を比較し、説得力のある意見文に必要なことを考えている。(1) ウ	
7	テーマについて、自分の立場を決め、意見を支える根拠を集める。	自分の立場に合う根拠を積極的に集めようとしている。		自分の立場及び伝えたい事柄を明確に書いている。(1) イ	
8	根拠を明らかにし、予想される反論、反論に対する意見を書く。構成を考え、意見文を書く。			自分の立場及び伝えたい事柄を明確にし、文章の構成を工夫して書いている。(1) イ	目的に応じた文章の形態や展開の工夫を考えている。(1) イ(オ)
9	自分の意見文を見直し、読み合い、交流しあう。	自分の意見文を推敲の観点に沿いより良い意見文にしようとしている。		推敲の観点に沿い文章について述べ合い見直している。(1) ウ	目的に応じた文章の形態や展開の工夫を考えている。(1) イ(オ)

5 本時の指導

(1) 本時の目標

二つのモデル文を比較し、説得力のある意見文に必要な観点を考えることができる。【書く能力】(1)ウ

(2) 具体の評価規準

	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する生徒への手立て
書く能力	説得力のある意見文に必要な3つの観点をとらえ、さらに新しい観点到気づいている。	説得力のある意見文に必要な3つの観点をとらえている。	言葉の違いに線を引かせる。

(3) 展開

	学習内容	学習活動	指導上の留意点 ○評価(・支援・留意事項)
導 入 5 分	1 前時の想起	<ul style="list-style-type: none"> 「モアイは語る—地球の未来」で学んだ、筆者の文章の展開の仕方、根拠の示し方を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 三段構成や、事実を数値を用いて挙げ、具体的な根拠を示すことなどを確認させる。
	2 課題設定	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習課題を設定する。 	
説得力のある意見文に必要なことを考えよう。			
展 開 35 分	3 個の活動	<ul style="list-style-type: none"> 二つのモデル文A・Bを比較し、説得力のある意見文はどちらなのか、どのような点が良いのかを考える。モデル文の良い箇所に線を引き、良い点を箇条書きで記入する。 <ul style="list-style-type: none"> 具体的な根拠がある 序論と結論に整合性がある 予想される反論に対する意見がある 	<ul style="list-style-type: none"> 机間指導 ○モデル文プリント 1に良い点を記入できたか。 同意見でも、全員が発表するようにさせる。 机間指導 ○プリントに他から学んだことを記入できたか。【書く】 各グループが共通して考えられた点を共有する。 他のグループからは出なかった良い気づきをおさえさせる。 ○モデル文プリント 2に学び合いで出た観点を良い点が記入できたか。【書く】 ○新しい観点をみつけることができたか。【書く】
	4 意見交流	<ul style="list-style-type: none"> グループ内で意見を交流しあい、モデル文の良い点を考える。 	
	5 意見発表	<ul style="list-style-type: none"> グループで交流した意見を発表する まとめた紙板書を貼り出し、グループごとの発表をする。 発表から、説得力のある意見文に必要なことは何か考える。 	
	6 個の活動	<ul style="list-style-type: none"> 個人でモデル文Cの良い点を考える。 	
終 末 5 分	7 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 感想を書き、発表する。 次回の学習内容を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 説得力のある意見文に必要なことを考えられたか、交流による気づきや学びがあったか振り返らせる。